

# 減災のための目標（案）について

# 小瀬川水系における水害の特徴

- ①河口地区の平野は、堤防の決壊に伴う氾濫流の拡散や高潮被害に対し、ひとたび浸水すると被害は甚大となる。  
○河口地区は大竹・岩国石油化学コンビナートとして瀬戸内工業地域の一部を形成しており、この地域の社会・経済の基盤となっており、また住宅地も密集している。
- ②中市堰から弥栄ダムまでのダム下流地区は、屈曲する谷底を蛇行しながら流下しており、沿川は市街地と山付け区間が連続し、狭窄部であることに加え、河積不足や樹木繁茂のため、流下能力不足となっており、浸水危険度が高い。  
○ダム下流地区にも家屋連坦地区が存在する。
- ③ダム下流地区は、蛇行を繰り返す小瀬川と背後の山との間にある狭小な土地に集落が点在する地域も有しており、氾濫によって、点在する集落が孤立化する恐れがある。  
○氾濫時には河道と氾濫域が一体となって流下する。

## 【小瀬川における水害の特徴】

- ・左岸側を広島県大竹市、右岸側を山口県岩国市・和木町の2県にまたがる氾濫原を有しており、水害時の連携が重要となる河川
- ・氾濫域には多くの人口・資産、行政・医療機関、山陽本線、国道2号といった重要な施設が多数あるとともに、瀬戸内工業地域の一部を形成しており、ひとたび浸水すると経済活動への影響は甚大



地域別の氾濫特性を踏まえた、適切な目標と取組方針の設定が重要

# 減災のための目標（案）

## ● 5年間で達成すべき目標

小瀬川水系河川整備計画に位置づけられる事業の早期完成に向け事業推進を図りつつ、大規模水害に対し、地域別の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。

※大規模水害

…想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

※逃げ遅れ

…立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

※社会経済被害の最小化

…大規模水害による社会経済被害を軽減し、早期に再開できる状態

## ■ 上記達成に向けた4本柱の取組

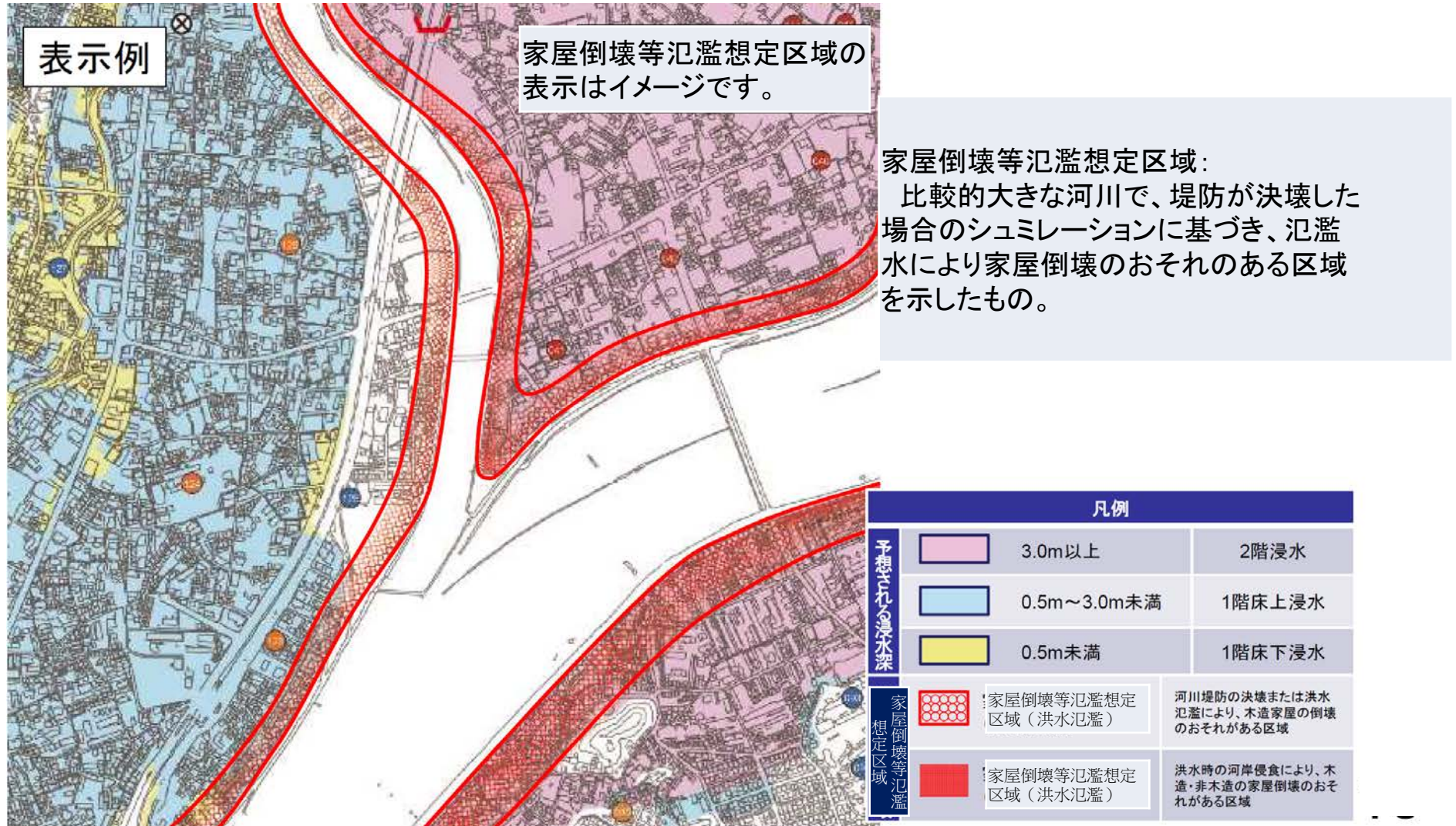
1. 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組
2. 地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動
3. 浸水を一日も早く解消するための対策
4. 弥栄ダムの効果的運用による下流被害の軽減

# ○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～ 情報伝達、避難計画等に関する事項 ～

タイムラインやハザードマップの作成

■ 想定最大規模降雨による洪水の浸水想定を踏まえたタイムラインやハザードマップの作成に取り組む



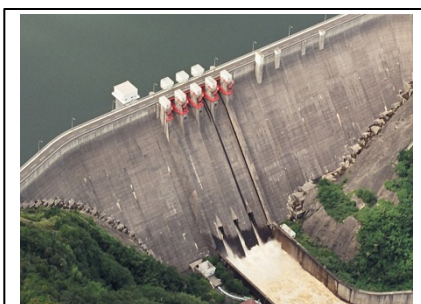
# ○迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

## ～ 情報伝達、避難計画等に関する事項 ～

### 河川のリアルタイム映像の提供環境の整備

- 出水の規模が大きくなると、弥栄ダムによる洪水調節を行う。
- これらの施設運用は、沿川住民に迫り来る危機を認識していただくために有効であり、リアルタイムの映像情報を配信することで住民の迅速な避難が可能となる。
- 映像情報を関係自治体へ配信するよう検討を行う。

### 避難の参考となるダムや河川の状況(イメージ)



例: 弥栄ダムの洪水調節



例: 両国橋の水位上昇



例: 下流域の浸水

雨の降り始め

0hr

6hr後

12hr後

18hr後

24hr後

時間軸はイメージ

## ～ 平常時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ～

### 堤防越水時の破壊力に関するイメージ動画の作成・公開

- 小瀬川から越水した流水の破壊力について、直感的に分かりやすい動画を作成・公開することにより、堤防から越水した流水の破壊力について、直感的な注意喚起を促す。

# ○地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

## ～ 水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項 ～

### 水防団や地域住民が参加した重要水防箇所等の合同点検

- 重要水防箇所、危険箇所について、河川管理者、水防団、地域住民が共同で点検を行い、情報の共有を図る。



平成26年度巡視状況(土嚢設置)



平成27年度安全利用点検状況



平成27年度合同巡視状況

### 関係機関が連携した実践的な水防訓練

- 例年実施している関係機関が連携した水防訓練について、更なる実践的な訓練を行う。
- 特に、広島県、山口県が連携した水防活動に関する取組を行う。



太田川水防演習 平成18年5月21日  
(小瀬川流域の市民も参加※声掛け)



排水ポンプ 合同訓練  
(太田川矢口排水機場の例)



安佐南消防署主導  
水防技術習得訓練 平成24年5月20日

# ○浸水を一日も早く解消するための排水対策

～ 氾濫水の排水、施設運用等に関する取組 ～

## 大規模災害を想定した排水計画(案)の作成

■ 既往洪水の状況から想定される浸水箇所について、排水ポンプ車の設置位置や運搬ルートの確認等、総合的な排水計画を作成する。

### 排水ポンプ車を用いた排水



浸水箇所(木野2丁目付近)(平成17年9月出水)



照明車の出動事例(平成26年8月6日の事例)



排水ポンプ車による排水作業(平成26年8月6日の事例)

# ○弥栄ダムの効果的運用による下流被害の軽減

## 適応操作とは・・・

下流の被害を軽減するため、ダム下流の水位状況に応じて、今後の降雨量を勘案しながらダムの残貯水量を有効に活用し、放流量を規定より減じる操作。

## 適応操作移行への判断基準

- ① 下流河川管理者等からの要請
- ② 下流河川の基準点水位
- ③ 次の洪水発生の予測
- ④ 現洪水見通し(雨量ピーク時点)予測
- ⑤ 貯められる容量 > 今後予測されるダム貯留量 (相当雨量により比較)

## 操作の体系化

ゲートを有する各ダムにおいて「操作要領」を定めて操作を実施

① 適応操作前の状況(7/14 11:04)

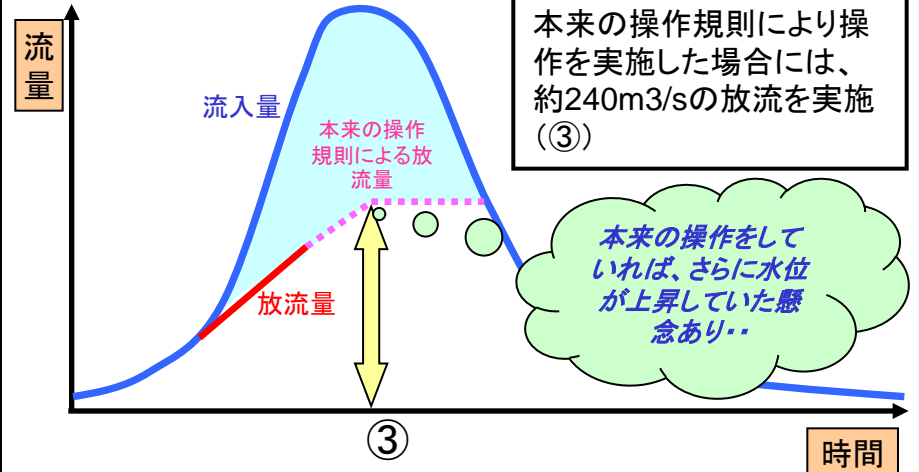


② 適応操作後の状況(7/14 16:31)



## 適応操作の他ダムでの事例(H22.7.14 出水時)

### 本来の操作規則による操作



### 適応操作

